みやぎ復興つうしん

H24 8月号

発　行
社会福祉法人　宮城県社会福祉協議会
宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター
〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉1丁目2番3号 自治会館2F
TEL: 022-266-3952　FAX: 022-266-3953
URL: http://msv3151.c-bosai.jp/

復興の歩みと ボランティアセンターの現状

東日本大震災から1年6ヶ月が過ぎようとしておりますが、県内の被災地の社会福祉協議会では、昨年の夏以降、「災害ボランティアセンター」から「復興支援応援センター等」に名称を変更して、被災者の個別ニーズに対応する機能を維持しつつ、震災により生活の場を失い、修復した家屋や応急仮設住宅及び民間賃貸借上げ住宅で、復興に向けた新たな生活がはじまった被災者に対し、保健、医療、福祉の関係機関やNPO、民間企業や各種団体と連携し、訪問活動や見守り活動を行うとともに、孤立、孤独を防止する観点から積極的にサロン活動をも展開し、新たな地域における住民同士の助け合いと見守りに繋げるため、地域コミュニティの再構築に向けて努力しております。

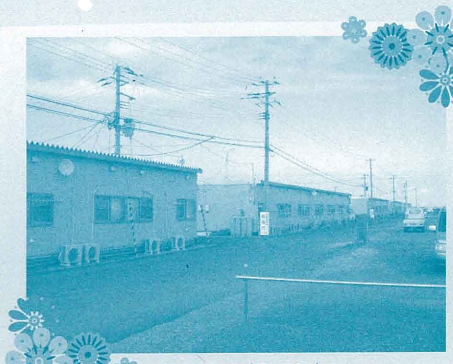
現在、被災者の皆さんは、一時的に生活の場が落ち着いておりますが、今後、市町の復興に合わせて「集団移転」や「復興住宅への引越し」などにより、今の地域コミュニティが崩れ、改めて移転先での地域コミュニティづくりが求められることから、今のうちからその準備が必要となってくることが予測され、更には生活の糧となる就労についても、地元企業の復興がなかなか進まないことから、被災地における住民の被災地離れなどによる人口の減少が急激に進むなど、新たな地域課題が顕在化してくるものと思われます。

このような状況において、地域コミュニティの実態を踏まえ、被災者を取り巻く環境の変化に応じた支援が求められることから、被災者一人ひとりが、安心していきいきと暮らせる地域づくりを目指し、被災地の社会福祉協議会はもとより関係機関並びに関係諸団体との連携を図りながら、地域の主役である住民とともに一歩ずつ歩んでまいります。

今回からの「みやぎ復興つうしん」は、これまで被災地への復旧・復興にご支援をいただいた方々に、今後の復興に向けて進めているそれぞれの地域での活動を紹介し、復興の状況をお知らせすることで感謝申し上げ、引き続き復興に向けての長期的なご支援をお願い申し上げます。

震災復興支援局長　　原 利明

仮設住宅集会所でのサロン活動（亘理町）


仮設住宅（亘理町）

ボランティア情報（平成24年8月現在）

現在のボランティアセンターの活動状況としては、南三陸町災害ボランティアセンターは、地域の産業や街づくりまで幅広く調整しており、ボランティア活動（自然系）が突出しておりますが、その他のボランティアセンターは、仮設住宅やみなし仮設住宅などの居住者の自立に向けた生活支援を行っています。

昨年と違い、常にニーズが顕在化していないことから、事前にボランティアセンターに登録していただき、後日、活動を紹介する事例が多くなっております。

ボランティア側からの一方的な思いによる支援は、被災者の生活の妨げとなる場合もありますので、被災者との顔の見える関係性づくりが必要であり、長期的、継続的に関わることができるボランティアが必要とされております。

1 気仙沼市社協ボランティアセンター
気仙沼市東新城2-1-2
TEL:0226-22-0722

2 南三陸町災害ボランティアセンター
本吉郡南三陸町志津川沼田56
TEL:0226-46-4088

3 石巻市災害ボランティアセンター
石巻市不動町2-16-10
TEL:0225-23-3911

4 女川町復興支援センター
牡鹿郡女川町桜ケ丘7-7
TEL:0225-25-4911

5 東松島市生活復興支援センター
東松島市矢本字大溜9-1
TEL:0225-83-5001

6 塩釜市社協ボランティアセンター
塩釜市北浜4-6-52
TEL:022-364-1213

7 多賀城市社協復興支えあいセンター
多賀城市城南1-18
TEL:080-5949-7501

8 浜を元気に!七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター
宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山5-9
TEL:090-6853-4490

9 復興支援"EGAO（笑顔）せんだい"サポートステーション
仙台市青葉区五橋2-12-2
TEL:022-266-6805

10 なとり復興支援センターひより
名取市増田字柳田80
TEL:022-383-3185

11 岩沼市復興支援センター　スマイル
岩沼市里の杜3-4-15
TEL:080-5949-7540

12 亘理ささえあいセンター「ほっと」
亘理郡亘理町字旧館60-7
TEL:0223-36-7559

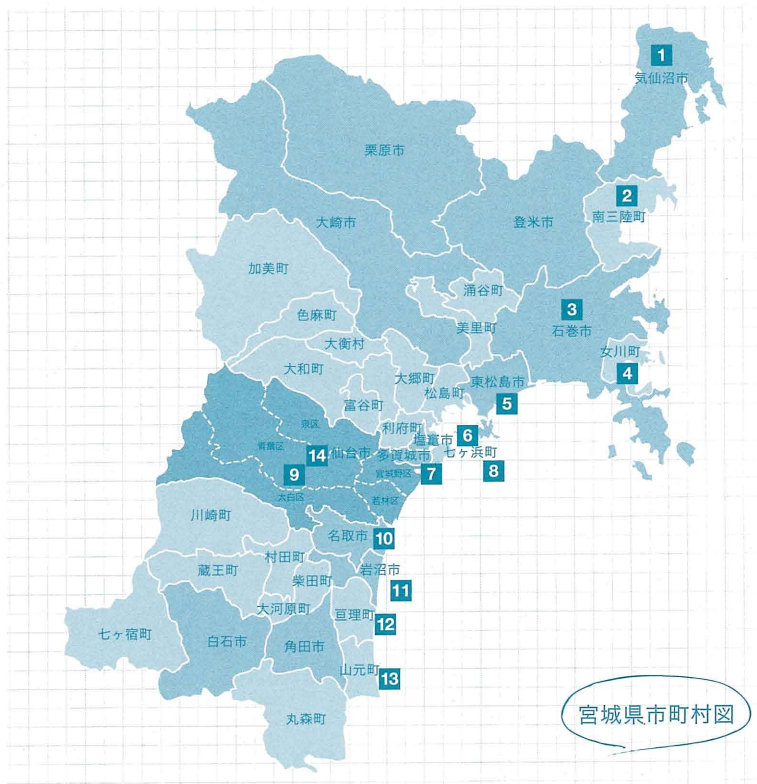
13 やまもと復興応援センター
亘理郡山元町浅生原字作田山32
TEL:080-5949-7720

14 県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター
仙台市青葉区上杉1-2-3
TEL:022-266-3952

お知らせ

七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター「農地復活大作戦」は、9月で終了します

4月から取り組んできました七ヶ浜町復興支援ボランティアセンターの「農地復活大作戦」はおかげさまで9月をもちまして終了する目途が立ちました。皆さまのお力により農地の復興が順調に進み、心より感謝申し上げます。



被災地の取り組み みやぎ～絆～smile

岩沼市

被災者支援を中心に活動してきた岩沼市復興支援センタースマイルも開所から1年が経過した。平行して行っていた災害復旧系の活動も今年の5月頃には収束し、市内に3ヶ所ある仮設住宅のコミュニティ再生支援をはじめ、みなし仮設交流事業や浸水被害地域の町内会活動の手伝いなどがセンターの役割の中心となっている。今年度当初からは岩沼市社会福祉協議会として震災前に行っていた老人福祉事業の社協従来の機能と役割を復活させており、復興支援センタースマイルに対する生活支援の専門性の重要度も高くなってきた。また、すでに8月からは市の業務委託を受け、みなし仮設住宅の訪問相談活動も始まっている。

「住民の皆さんから『改めて地域の交流を深めたい』ということで、敬老会などの町内会での集まりをやるにあたって協力してほしい、という声が上がり始めてきましたね」とは生活支援相談員の青木秀利さん。「泥かきなど災害ボランティア活動を通じてつながりを持っていた地域の方からお声掛けいただいて、イベントや催し物を関係各所につないだり、炊き出しなども行っています。住民の方々も『自分たちで』というか、少しずつ前向きになってきているのかな、と感じています」。サロンや交流会を行った地域から派生して、別の町内会からも依頼が集まってきており、地域福祉の充実、地域活性に向けた活動として積極的に関わりを持っていく方針だ。

一方で近い将来に予想される仮設住宅やみなし仮設住宅からの移転による新しいコミュニティ形成に対しての準備も課題のひとつになっている。岩沼市社会福祉協議会事業課の諏江伸さんは「復興住宅に移った後も、住民が自分たちで集まれる機会を作れる、そしてそれをリードする人材を育てたいと思っていますが、まだ目標値には届いていないと思います」と話す。岩沼市の仮設住宅では農村地域の集落の方々がまとまって入居されているところが多く、住民同士のつながりは強いものの高齢の方が多い、という地域特有の事情もある。「仮設住宅の支援を主体的に行っているサポートセンターや行政、各関係機関などとの情報交換などをさらに活性化させ、住民主体の地域活動をサポートしていきたいと考えています」。

センタースタッフ

みなし仮設入居者交流会

岩沼市復興支援センタースマイル
住所：岩沼市里の杜 3-4-15
TEL:0223-29-3711

東松島市

仮設住宅の見回り・訪問相談活動などを行う3ヶ所のサポートセンター、NPOやNGOなど約30の外部団体によって組織され今年6月に社団法人化した東松島復興協議会、そして行政、東松島市社会福祉協議会がしっかりと連携し、効率的でスムーズな復興支援活動が展開されている東松島市。甚大な被害を受けた東日本大震災から1年4ヶ月が経過した現在、被災者や仮設住宅、みなし仮設住宅の状況に合わせ、東松島市社協も支援活動の内容を進展させている。

仮設住宅の支援に関してはサポートセンターのスタッフが全1,680戸に訪問、見回り活動を継続。泥かきや引越しなどの復旧ニーズも収束しつつあるものの、第一、第三の週末に登録ボランティアを中心に活動している。

4月からは「被災者の心身のケア及び生きがいづくり」と称して、地域の協力者、ボランティアを含めた方々と市内23ヶ所で年間計画を元にサロン活動も開始した。復興イベントに関しても、市やボランティア団体、地元の学校などからの申し出による催しなども盛んに行われ、東松島市社協職員やサポートセンタースタッフが調整を行っている。

また、友好都市盟約を結んでいる山形県東根市からの支援もいただいており、毎月第三木曜日を「東根デー」として東根市社協で募集したボランティアが落語や寸劇、野菜植えなどを行い、地域住民との交流を深めている。この8月には東根市で子育て支援を中心として活動している「さくらんぼタントクルセンター」のスタッフ全員によって、子育て関連のイベントを開催する予定だ。

「社協と住民のつながりは震災前に比べてぐっと近づいていますし、住民の地域福祉に関する意識も高まっていると感じています」とは東松島市社会福祉協議会生活復興支援センター副センター長の千葉貴弘さん。「これまでの復旧、復興活動、そして地域への意識の高まりの中で、住民と行政、社協、NPO・NGO団体さん、企業が協力し合う『新しい公共』の形が実践でき始めていると思います。地域によって被災状況も違えば、協力者の人数も違うので一概には言えませんが、地域住民の『自分たちで』という意識も着実に広がっています」。被災者支援とまちの復興、そして地域福祉の充実。様々な機関との強い連携をもとに、東松島市社会福祉協議会も着実に歩みを進めている。

サロン活動の様子

生活不活発病予防運動教室も実施

東松島市社協生活復興支援センター
住所：東松島市小松字上浮足 252-3
TEL:0225-83-2851

今月の「人」

認定NPO法人ICAN（アイキャン）事業部
近藤　祐佳 さん

「東松島市の子どもたちは子どもたちで、10年後、この街がこんな風になったらいいな、ということを考えていると思うんです」。認定NPO法人ICANの近藤さんが進めているのは『10年後のまちづくりを考える絵画大会』。「もともとはICANが名古屋で小中高校生を対象に行っていたもので、集まった絵画を大きなパネルに貼ってショッピングセンターなどで展示したり、その後製本して市内の学校に配布したり、フィリピンの子どもたちと絵手紙の交換などもしたんですね。そのノウハウで東松島市でもやってみたいと。子どもたちに住んでる地域のこれからを考えてほしい、そして、これからのまちづくりを考えている多くの大人の方々に、『子どもたちの考えるまちづくり』を知ってもらいたいんです」。

愛知県出身の近藤さんが初めて東松島市を訪れたのは震災から約3ヶ月後の6月。2ヶ月間のボランティア活動を経て、今年1月から東松島市で活動できるということもありICANに加わった。斬新で前向きな近藤さんの行動の源は東松島市への愛情の深さだろう。

「別々の団体に所属する20代、30代の世代8人で『インパルス』という活動団体をスタートしました。地元の方4人と、私を含め県外の方4人。東松島市の農業を知るために、農業に特化した企業さんに教えていただきながら畑をやらせていただいたり、また地元のお祭りへの参加呼びかけなども行っています。なかなかまちづくりの会議などに参加できない地元の若い人も、地元のことを考えているということを様々な世代の方々にも知ってもらいたいですね」。